

市民委員会 成果報告書

宝の山プレーパーク

1 活動テーマ

宝の山プレーパーク（冒険遊び場）を実施することにより、子どもの生きる力を育むとともに、市民が安心して過ごせる居場所のあり方について提言する。

2 活動の目的（趣旨）

都留市には豊かな自然があるが、それを生かした公園などの遊び場がほとんどない。さらに、地域の大人が自然の中でどのように子どもの遊びを見守り、サポートするのかわからないという現状がある。そのため、子どもたちが野外で自由に遊ぶ機会が得られず、自然体験ができない（そしてそのまま親になる）という悪循環になっている。

危険予知ができずに野外で自由に遊ぶのは非常に危険なので、地域のリスクマネジメント能力を高める必要がある。

また、異年齢の人々が集い、安心して子どもを遊ばせられる場所がない。そのため、子どもが就園するまで親同士が知り合う機会もほとんどなく、育児の悩みを一人で抱えてしまいがちである。

森や炎は五感に直接働きかけ、人を癒す力がある。

誰もが出入り禁止になることなく、何かを強要されることなく、温かく迎え入れてくれる居場所が必要である。

すべての人にとって安心できる居場所となり、自己肯定感を育む場とする。

3 活動計画

(活動期間：平成27年4月1日～平成28年3月31日)

宝の山プレーパークの実施

活動概要：自然の中で、自分の責任で、自由に遊ぶ。

自然での自由な遊びの中で、失敗を含む多くの実体験を重ね、
里で楽しく、たくましく生きる力を培う。

たき火で各自持ち寄り具材のみそ汁をみんなで食べることに
より、一体感を味わう。

あらゆる世代の人に見守られながら遊ぶことの心地よさを感じ
る。

活動日：毎週水曜10時～14時

活動場所：都留市の豊かな森「宝の山ふれあいの里」

対象：すべての人に。特に、未就学児親子、学生など。

活動内容：ネイチャーセンターコンセプト

たき火料理、森さんぽ、川遊び、泥田んぼ、坂滑り
基地づくり、工作、ハンモックで昼寝 など。

参加者の「やりたいこと」に対し、可能な限り対応する。

「なにもしない」という選択肢もあり。

4 予想される成果

- 異年齢での関わりによって、子どもは遊びの幅が広がり、大人は知見が広がり、リスクマネジメント能力が高まる。
- 年少者は年長者を見て憧れ、年長者を目指しチャレンジをし、年長者は年少者に頼られ、貢献できることが自信につながる等、お互いの成長を促す。
- 参加者自らが過ごし方を選択することによって、自主性、創造性が育まれる。
- 他者と共存し、過ごす中で自分自身・他者との関係・自然とのつながりが体感でき、自己肯定感が育まれる。
- 豊かな自然の中で、誰もが出入り禁止になることなく自由に遊べる場として、都留の良さを市内外にPRできる。

5 活動実績

(活動期間：平成27年5月20日～平成28年3月23日)

活動回数 : 全43回
参加延べ人数 : 531名 (うち、市外参加者47名)
登録人数 : 129名 (うち、市外登録者35名)

森のおやこじかん : 計9回 参加人数121名

森さんぽ : 計11回 参加人数80名

子育て講座 (3月19日(土))

(講演会) : 参加29名 (うち、市外参加12名)

(出張プレーパーク) : 参加68名 (うち、市外参加16名)

6 広報

広報誌掲載 : 広報つる8月号～ 森のおやこじかん毎号掲載
広報つる10月号～ 森さんぽ毎号掲載

チラシ配布先 : ファミリーサポートセンター、いきいきプラザ、
ぴゅあ富士、富士吉田市図書館

子育て講座広報

広報誌掲載 : 広報つる、広報にしかつら、広報おおつき、
広報おしの各3月号掲載
ちびっこぷれす(山梨県子育て情報誌)3月号掲載
フジマリモ(新聞折込情報誌)3月12日号掲載

チラシ配布先 : ファミリーサポートセンター、いきいきプラザ、
ぴゅあ富士富士吉田市図書館、富士吉田市役所
都留市内全小学校・幼稚園・保育園、西桂町小学校、
道志村小学校、道志村保育園、都留文科大学、
富士吉田市つどいの広場ハーモニー(子育て支援センター)
富士河口湖町子ども未来創造館 計3500枚

情報発信

ブログ開設 : 6月25日～

活動の様子・イベント情報など発信(週1回以上)

ブログ <http://takarapurepa.blog.fc2.com/>

取材・情報誌掲載

フジマリモ(新聞折込情報誌)1月16日号 一面掲載

広報つる2月号 協働通信 掲載

広報つる4月号 まちかど通信 掲載

体験 : きらめき女性塾(11/24)

見学 : こすもす教室(12/16)

見学、協働打診 : パルシステム山梨(3/9)

取材打診 : ちびっこぷれす

7 得られた成果

- 学生の参加により、遊びの幅が広がった。

小中学生は、未就学児にとっては憧れ。手を引いてもらって、遊び方や危険な場所を教えてくれた。小中学生にとっても、頼られることで自信につながり、率先して遊ぶことができた。

高校・大学生の参加により、おにごっこやサッカーなど、体力の要る遊びが充実し、小学生が遊び込めた。高校・大学生にとっても、遊びの楽しさを再認識できた。

- 大人は我が子以外の子と過ごすことで、違う視点が見えてきた。

我が子の欠点（おとなしい・なかなか輪に入れない等）だと思っていたことが褒められた（慎重・相手を思いやることができる等）り、困った性質と思っていたこと（落ち着きがない・集中力がない等）が長所（積極的・好奇心旺盛等）だと気づいたりできた。

- 子どもは親以外の大人と過ごすことで、いろいろな価値観を学べた。

できる・できないに追われていない親以外の大人は、ゆったりと子どもを見ることが出来る。できるだけ手をださずに見守ってもらえて、自分でできる（転んでも自分で起き上がる等）力をつけることができた。

- 大人も一緒になって遊ぶことにより、心が楽になった。

子どもと一緒にたき火、砂遊び、工作など楽しめた。大人も遊ぶことで心が楽になった。大人でも遊ぶことは大切だと気づいた。

- 参加者が自主的に遊びを創り出すことができるようになった。

参加者が過ごし方を自由に選べるため、ダンボール、ソリや砂遊び道具、芋などを持ち込んで参加者自身が遊びを作り出せた。また、次は何をして遊ぼうと考える楽しみができた。

- 子どもの「やりたいこと」を最大限可能にすることにより、

子どもは満足感を得られ、大人は子育てスキルアップができた。森さんぽの行き先は子ども達が決めるため、行きたい方向へ行く。やりたいこと を最大限にやってみる（冬場に池に入る、橋のない川を覗き込む、危なそうなところに登ってみる等）ことができる。親は危ない等判断のできない場面で、止めたいような行為であっても、判断できる他の大人と一緒にだとして見ることができ、大人の子育てスキルアップにつながった。

そして、子どもの輝くような笑顔が多く見られた。

●身近にある植物がさらに身近に感じられた。

野草染め、杉の葉染めをしたり、よもぎだんごを作って食べたり、みそ汁に三つ葉を入れたりした。すぐ近くにあるものが食べられたり、染めに使えたりすることに気づいた。

●身近な生き物の存在・生態を知ることができた。

森を歩けばすぐに鹿の糞、モグラの掘った跡、イノシシの掘った跡、リスやネズミの食べた後の松ぼっくりやくるみなどを見つけられた。蛇の出る場所を知った。おたまじゃくしの孵っていく様子を観察できた。子どもの成長（何ヶ月前までは歩けなかったのに、もう上手に歩けてる！等）も感じられた。

●イベントを通して、都留で活動している人とつながることができた。

- ・ 7月 竹で遊ぼう！ 安田圭一さん
- ・ 8月 こぶたのおはなし会 こぶたの会、
働く馬コートローと遊ぼう！NPO 法人都留環境フォーラム
- ・ 10月 ベビーと防災 市役所防災担当
- ・ 11月 ママとベビーのタッチケア 寺岡ひろこさん
- ・ 12月 ぴゅあ富士ともすく広場 家庭教育支援グループ ラ・ペジブル
- ・ 1月 親子でわれべうた 木村秀子さん
- ・ 2月 森でベビーとママごはん 山野辺智子さん

●毎月のイベントで新規参加者が増加した。

最初は、どう遊んだらいいかわからないのでイベントに参加してみる。何をするのか想像ができるので、安心して来ることができた。午前のイベントの後には、みそ汁を飲んで、少し遊ぶ。それを何回か繰り返して自由遊びの日に参加できるようになってきた。

●豊かな自然の中で、自由に遊べる場として、都留の良さをPRでき、市外からの参加者が増加した。

視察先の甲府から、友人つながりの東京あきる野市から、ちびっこぶれすの広報で北杜市（当日欠席）中巨摩郡・忍野から参加者があった。自分の住んでいる地域には自由に火を使って遊べる場所がないので、とても楽しかった、自分の地域にもほしいとの感想をいただいた。その他にも、富士吉田市・富士河口湖町・大月市からも参加があり、遊ぶことへの関心がある人への参加につながった。

8 これからの課題

●スタッフの増員

現在、一日現場を任せられるスタッフが一人しかいない。その一人の家族が病気になった場合、当日開催できなくなる可能性が高い。安定的な開催のため、スタッフの確保は必要不可欠である。

●プレーリーダーの募集・育成

自由な遊びには危険が伴う。小さな怪我は必要な時もあるが、大きな怪我は絶対にあってはならない。

「やりたい！」を最大限かなえるためには、どこまでが平気で、どこからが危険なのか、現場の状況・個人の性格・その日の体調なども含めて総合的な判断力が必要とされる。

さらに、体の安全だけではなく、心の安全も守れる対応ができなくてはならない。子どもの見えない心の声を拾い上げ、周りの子どもや、大人との掛け橋を担う高度な技術が要求される。

その技術取得のための研修や実践経験を積むことが必要である。

●資金確保

プレーパークは、誰もが自由に差別されることなく来ることのできる場としている。そのため、参加者からの参加費は無料としたい。参加費を払えない人が来れなくならないためだ。

参加費を払うと、見返りを求めてしまう。プレーパークはサービスを提供する場ではない。みんなで持ち寄り、創り上げていく場としたい。そのため、参加者や活動に賛同してくれた人からの募金を募っている。しかし、それで会場費や、保険代、プレーリーダーの研修、イベント、広報にかかる費用の全てを賄うことは難しい。安定した継続のための資金確保が必要である。

●週末開催、出張開催

開催日が祝日だと、参加者が増加することがわかった。平日だと働いていて来られないからだ。祝日参加者からの週末開催希望もあった。車のない大学生・遠方（道志村）からは出張開催の要望もある。週末開催のためには、スタッフ・プレーリーダーの増員が必要条件。今の体制では参加者の安全が確保できない。

逆に言えば、スタッフ・プレーリーダーが確保できれば週末開催も出張開催も可能となる。

週末・出張開催が可能となれば、参加者は増え、働く子育て世代の居場所となることができ、健全な親子関係が築ける。

さらに市外からの参加者も増え、都留市のPRにつながる。

9 都留市に協力いただきたいこと

● 広報

都留市の子育て拠点として、子育て情報の発信をお願いします。
都留市のHPに掲載などすると、これから都留市に移住しようとしている人を獲得できる可能性大です。

子育て世代の都会からの移住希望者は、自然の中で子育てしたいと思っています。しかし、都留には公園がどこにあるかの情報もありません。子育て世代が集う場所が少なすぎます。都留市内では他の子育て世代の人と知り合うきっかけがなく、孤独になります。都会にはたくさんプレーパークがあるので、安心して来ることができると思います。

● 活動場所の提供

安定した活動のために、場所の確保をしたいです。

子育て支援の拠点として、活動場所の無償貸し出しをしてほしいです。

宝の山は自然豊かな素晴らしい場所ですが、行くには少し遠いです。もっと生活圏に近いところで開催し、週末や平日の夕方、小中学生にも遊ぶ環境を提供したいです。

小学校の校庭・空き家など無償で貸してもらえたら活用することが可能です。（イギリス・フィンランドなど海外では学童の位置づけのプレーパークも多数存在します）

● 資金援助

活動場所の確保・保険代、イベント、広報にかかる費用を援助していただきたいです。

高い技術力を必要とするプレーリーダーの研修、経済的な支援があれば質の高い環境を作り出すことが可能です。

プレーパークを運営していくのは、市民有志です。

場所と資金、広報のご協力をいただけると、もっと活躍できます。

場所と人が確保できることにより、安定的な開催ができます。

安定的な開催は場の質もあがり、子ども達の健全な育ちに役立ちます。

市外からも注目を浴び、都留市のPRにも役立ちます。

移住者の増加も期待できます。

都留市との協働事業としてできたら、うれしく思います。

宝の山プレーパーク 活動報告 2015年度

5/20 (水)	第 23 回	森さんぽ 市民委員会助成開始 (5/18)	9	1	0
5/27 (水)	第 24 回	自由遊び	8	0	0
6/3 (水)	第 25 回	自由遊び	6	0	0
6/10 (水)	第 26 回	自由遊び	9	0	1
6/17 (水)	第 27 回	森さんぽ	9	0	1
6/24 (水)	第 28 回	自由遊び	7	1	0
7/1 (水)	第 29 回	自由遊び	9	0	0
7/8 (水)	第 30 回	自由遊び	13	3	0
7/15 (水)	第 31 回	森さんぽ	3	0	0
7/22 (水)	第 32 回	夏休み 竹で作ろう!①	7	0	0
7/29 (水)	第 33 回	夏休み 自由遊び	5	1	0
8/5 (水)	第 34 回	夏休み 広報つる8月号～森のおやこじかん毎号掲載 森のおやこじかん こぶたの会の読み聞かせ② もりもりたんけん!	17	3	0
8/19 (水)	第 35 回	夏休み 馬のコータローと遊ぼう!③	13	6	0
8/26 (水)	第 36 回	自由遊び	4	0	0
9/2 (水)	第 37 回	森のおやこじかん用イベントチラシ 毎月配布開始 森のおやこじかん りさいくるひろば ④	16	5	0
9/16 (水)	第 38 回	森さんぽ	5	0	0
9/23 (水)	第 39 回	自由遊び	6	2	1
9/30 (水)	第 40 回	自由遊び	8	0	0
10/7 (水)	第 41 回	森のおやこじかん ベビーと防災⑤	17	13	0
10/14 (水)	第 42 回	自由遊び	7	4	0
10/21 (水)	第 43 回	森さんぽ 広報つる10月号～ 毎号森さんぽ掲載	13	4	0
10/28 (水)	第 44 回	自由遊び	6	0	0
11/4 (水)	第 45 回	森のおやこじかん ママとベビーのタッチケア⑥	27	5	0
11/11 (水)	第 46 回	自由遊び	9	0	0
11/18 (水)	第 47 回	自由遊び	3	0	0
11/25 (水)	第 48 回	きらめき女性塾	14	2	0
12/2 (水)	第 49 回	森のおやこじかん ピュア富士子育て応援シリーズ ともすく広場⑦	9	3	1
12/9 (水)	第 50 回	自由遊び	10	3	0
12/16 (水)	第 51 回	森さんぽ フジマリモ取材 広報つる協働通信取材 コスモス教室見学	17	7	3
12/23 (水)	第 52 回	森のクリスマス会⑧ 全小学校・幼保園にチラシ配布	36	9	2
1/6 (水)	第 53 回	冬休みつらたんけん! / トントンカチカチ大工さん⑨ 全小学校・幼保園にチラシ配布	16	6	6
1/13 (水)	第 54 回	森のおやこじかん 親子でわらべうた⑩	11	0	0
1/20 (水)	第 55 回	森さんぽ	5	0	0
1/27 (水)	第 56 回	自由遊び	7	0	0

2/3 (水)	第 57 回	森のおやこじかん ママとベビーごはん ^⑪	12	3	0
2/10 (水)	第 58 回	自由遊び	6	0	0
2/17 (水)	第 59 回	森さんぽ	9	2	0
2/24 (水)	第 60 回	自由遊び	9	0	0
3/2 (水)	第 61 回	森のおやこじかん りさいくるひろば ^⑫	12	2	2
3/9 (水)	第 62 回	自由遊び	9	2	1
3/16 (水)	第 63 回	森さんぽ	10	1	1
3/19 (土)	第 64 回	子育て講座 講演会 ^⑬	29	17	12
		子育て講座 出張プレーパーク ^⑭	68	24	16
3/23 (水)	第 65 回	自由遊び	6	0	0
			531	129	47

宝の山プレーパーク 成果報告 2015年度

7/22 (水)	No1	竹で作ろう！ 講師：安田圭一氏
8/5 (水)	No2	こぶたのおはなし会 講師：こぶたの会
8/19 (水)	No3	馬のコートローと遊ぼう！ 講師：NPO法人都留環境フォーラム岩田和明氏
9/2 (水)	No4	りさいくるひろば
10/7 (水)	No5	ベビーと防災 講師：都留市防災担当 蛭間氏
11/4 (水)	No6	ママとベビーのタッチケア 講師：寺岡ひろこ氏
12/2 (水)	No7	ぴゅあ富士子育て応援シリーズ出張講座 ともすく広場 講師：家庭教育支援チーム ラ・ペジブル 藤森晴江氏
12/23 (水)	No8	森のクリスマス会
1/6 (水)	No9	トントンカチカチ大工さん
1/13(水)	No10	親子でわらべうた 講師：木村秀子氏
2/3 (水)	No11	ママとベビーごはん 講師：山野辺智子氏
3/2(水)	No12	りさいくるひろば
3/19 (土)	No13	子育て講座 講演会 「子どもの生きる力を育む『遊育』ってなあに？」 講師：天野秀昭氏
	No14	子育て講座 出張プレーパーク

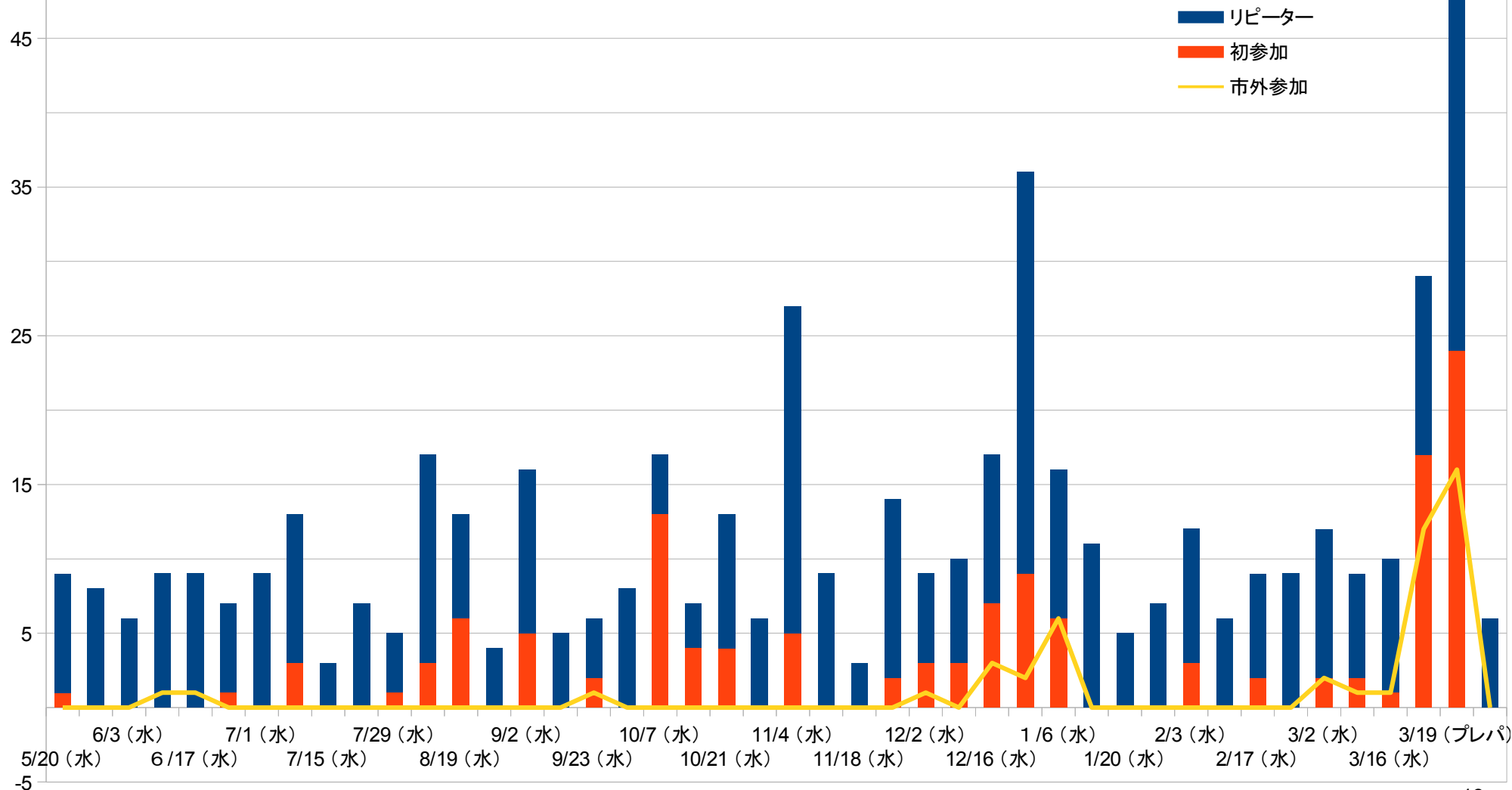
宝の山プレーパーク 研修報告 2015年度

10/18 (日)	No1	まほらの森のプレイパーク
12/7 (火)	No2	NPO法人日本わらべうた協会 わらべうたで遊ぼう
12/27 (日)	No3	愛宕山子どもの国 冬遊び
1/10 (日) ,16 (日)	No4	世田谷・羽根木プレーパーク
1/10 (日)	No5	世田谷・羽根木プレーパーク ニューイヤープレーパーク
1/16 (日)	No6	世田谷・羽根木プレーパーク くるくるひろば
	No7	世田谷・そらまめハウス
	No8	渋谷区・はるのおがわプレーパーク
1/19 (火)	No9	子育て講座「遊育」のススメ
	No10	新宿・戸山プレーパーク

プレーパーク開催 計44回 (5/20~3/23)

延べ人数 531名 登録人数 129名

市外参加者延べ人数 47名



宝の山プレーパーク 平成 27 年度 成果報告書 No.1

日時	平成 27 年 7 月 22 日 (水) 10:00~16:00	参加人数	7 名
場所	宝の山ネイチャーセンター	初参加者	(0 名)
	竹で遊ぼう!	市外参加者	(0 名)
広報	プレーパークチラシに記載 ファミサポ、ぴゅあ富士、富士吉田市図書館	講師	安田圭一さん
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・プレーパークへ来てもらうためのきっかけづくり ・竹を使って自由な発想を膨らませる ・ナタや、のこぎり、ナイフの使い方を覚える 		
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・竹で、自分の好きなものを作る スコップ、箸、おわん、スプーンなど 		
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・竹でスコップが作れた! ・子ども自身の発想でお椀やスプーンができた ・ナイフやなたの使い方を覚えた。 		
参加者 感想	<ul style="list-style-type: none"> ・スコップが作れてうれしい!大きくできてしまったので、子ども用にはもうちょっと小さいほうがよかったと思いました。 ・竹の割り方を覚えました。楽しかったです。 		
今後の 課題	<ul style="list-style-type: none"> ・イベント情報の告知方法の検討 ・ブログでの情報発信の継続 ・人が来たくなるようなイベントを企画する ・小学生が来れるようにする ・スタッフの育成!! 		

当日の様子



宝の山プレーパーク 平成 27 年度 成果報告書 No. 2

日時	平成 27 年 8 月 5 日 (水)	参加人数	17 名
場所	宝の山ネイチャーセンター	初参加者	(3 名)
テーマ	森でモリモリたんけん！&こぶたのおはなし会	市外参加者	(0 名)
広報	広報つる 8 月号に掲載		
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・プレーパークに来てもらうためのきっかけづくり ・小学生の子どもと思いきり遊ぶ！ ・プレーリーダー候補の学生の研修の場 		
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・こぶたのおはなし会 ・川へたんけん！ <p>そこに住む生き物のことを知る、川で思いきり遊ぶ！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野草を食べてみる（三つ葉、よもぎ、ふきをみそ汁に入れてみる） 		
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・プレーリーダー候補の大学生もいたので、小学生のみの参加が可能となった。 ・親が働いている子も、来ることができた。 ・大学生がいると、遊びの幅が広がっていい！小学生も楽しめた。 ・おはなし会 で本に親しめた ・川で五感を使って遊べた（冷たい！痛い！ざらざらする！等） ・食べられる野草について知ることができた 		
参加者感想	<ul style="list-style-type: none"> ・もっと遊びたかった！！ ・子どもだけで行けてよかった。もっとそういう日がほしい。 ・野草が意外と身近にあって、食べられるのにびっくり。もっといろいろ知りたいです。 ・川へみんなで行けてよかったです。一人で子どもを 3 人連れて行くのは怖いけど、一緒に行けたのでみんなで楽しめました。ありがとうございました！ 		
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生だけで来られるように、スタッフの育成！！ ・イベントに来てくれる人たちが継続的に来れるような場づくり ・活動の情報発信を続ける 		

添付資料



宝の山プレーパーク 平成 27 年度 成果報告書 No.3


日時	平成 27 年 8 月 19 日 (水)	参加人数	13 名
場所	宝の山ネイチャーセンター	初参加者	(6 名)
テーマ	働く馬コータローと遊ぼう！	市外参加者	(0 名)
広報	広報つる 8 月号に掲載		
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ プレーパークに来てもらうためのきっかけづくり ・ 親子で馬に触れることで、癒される ・ 大人も馬に乗ることで、癒される 		
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 馬にえさをあげる ・ 馬に乗ってみる 		
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ イベント効果で参加者増加 ・ 小さい子どもがいる親も、子どもを預けて乗れた。 ・ 馬に乗ることでみんな笑顔になった。 		
参加者感想	<ul style="list-style-type: none"> ・ いつも子ども優先で乗ろうと思ったことがなかったけど、進められて乗ってみたらすごく気持ちよかったです！！ ありがとうございます。 ・ 楽しかったー！！ 馬ってあったかいですね。また乗りたいです。 ・ コータローが走ったので、ドキドキしました。 <p>振動が直接伝わってきて、楽しかったです。</p>		
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ イベントに来てくれる人たちが継続的に来れるような場づくり ・ 活動の情報発信を続ける ・ 自由な空間にするか、プログラムにするか、講師と打合せが必要。 		

活動写真





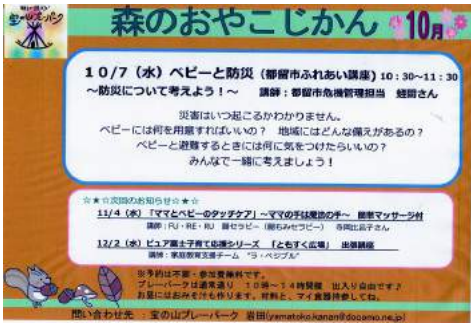
宝の山プレーパーク 平成27年度 成果報告書 No.4

日時	平成27年 9月2日(水)	参加人数	16名
場所	宝の山ネイチャーセンター	初参加者	(5名)
テーマ	第1回 森のりさいくるひろば	市外参加者	(0名)
チラシ		<p>広報つる9月号に掲載 チラシ配布先</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いきいきプラザ ・ファミリーサポートセンター ・ピュア富士 ・富士吉田図書館 	
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・プレーパークに来てもらうためのきっかけづくり ・ベビー・子どもものの有効活用 ・ママ同士の交流 		
内容	<p>子育てグッズ、子供服、マタニティグッズなど、もらったらうれしいと思えるものを持ち寄り、必要としている人が無料で持ち帰ることができる。</p> <p>持ち寄ったもので、引き取り先のないものは、自分で持ち帰る。(置いていかない)</p>		
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・イベント効果で参加者増加 ・もらってほしいものが、ほしい人に届いた。 ・広報を見て来てくれたひとがいた。 ・ママと子どもがゆったりとできた。 		
参加者感想	<ul style="list-style-type: none"> ・おさがりする人がいなかったから助かった。 ・残って持ち帰るのがちょっと面倒でした。 ・欲しいものが無料でもらえて嬉しかったです。 <p>またやってほしいです！</p>		
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・りさいくるひろばの定期的開催 ・りさいくるひろばの流れがわかるようにする。 ・持ち帰らなくてもいいようにする ・イベントに来てくれる人たちが継続的に来れるような場づくり ・活動の情報発信を続ける 		

添付資料



宝の山プレーパーク 平成27年度 成果報告書 No.5

日時	平成27年 10月7日(水)	参加人数	17名
場所	宝の山ネイチャーセンター	初参加者	(13名)
テーマ	都留市ふれあい講座 「ベビーと防災」	市外参加者	(0名)
広報	<p>チラシ</p> 	講師	都留市防災担当 蛭間氏
		<p>広報つる9月号に掲載 チラシ配布先</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いきいきプラザ ・ファミリーサポートセンター ・ピュア富士 ・富士吉田市立図書館 	
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ベビーがいる家庭の防災について考える ・オムツや抱っこ紐がないときの代用品を知る 		
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で起こりうる災害について知る ・自分でできる備え ・災害情報について知る ・シェイクアウト訓練 ・おむつや抱っこ紐の代用の紹介 		
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・防災に意識のある方の参加があった。新規6組。 ・都留市の備蓄・災害情報について知ることができた。 ・おむつの代用や、抱っこ紐の代用を体験できた。 		
参加者感想	<ul style="list-style-type: none"> ・抱っこ紐の代用が知りたかったのでよかった。 ・都留市の備蓄状況を聞いて、備蓄を増やしたほうが良いと思いました。 ・抱っこ紐、意外に簡単でしっかりだっこできるので、備えようと思いました。 ・手が使えないと肩身が狭いこともあるので、子どもを抱っこ紐でだっこできるのはいいなと思いました。 ・シェイクアウト訓練、小さな子どもでもできるので、遊びの感覚でやろうと思います。 		
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ベビーがいると、話に集中できない。託児を検討。 ・もっと市民の意見を市に届けられるようなプログラムにする。 ・企画をしたいというママたちがいるので、どのように進めていくのか検討。 ・必要以上に電気やレンジを使わなくてもいい場所にするための技、情報発信。 ・やりたいことをやれるよう、サポートする。 ・イベントに来てくれた人が継続的に来てくれる場づくり ・情報発信の継続 		

添付資料



その他自分でできる、災害への対応

●シェイクアウト訓練

⇒地震が発生した時にどのような対応をするのかを体を使って、覚える地震防災訓練の事です。

- ・地震が発生した場合には、
- ①ドロップ（姿勢を低くする）
- ②カバー（頭部・体を護る）
- ③ホールドオン（動かない）

地震発生時は、まず自分を守ることが大事です。
自分の身の安全が確保されてから、次の行動に移りましょう。



代用例① オムツ

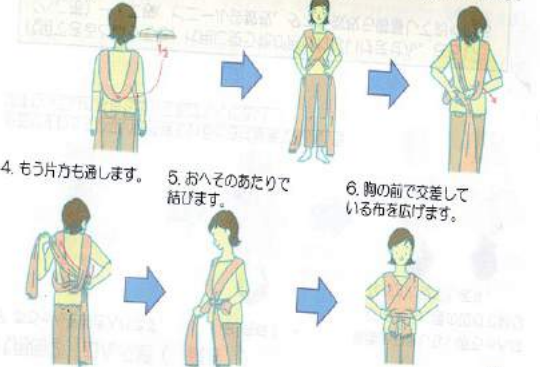
1. レジ袋の持ち手部分をハサミで左右切る。両脇のマチ部分も同様に切る。
2. 1を広げると細長い帯状の形になるので、その中央部分に、タオル等を切ったものを敷く。
3. 赤ちゃんの体に合うように、持ち手部分をクルクルと巻き調整する。



代用例② おんぶ紐

代用例② おんぶ紐

1. 布を三つ折りにして、布の中央を背骨にあひせ腰あたりまで布を垂らします。
2. 帯を胸の前で交差させます。
3. 背中の中垂らした部分に前の帯を通します。




宝の山プレーパーク 平成27年度 成果報告書 No.6

日時	平成27年 11月4日(水)	参加人数	27名
場所	宝の山ネイチャーセンター	初参加者	(5名)
テーマ	ママとベビーのタッチケア	市外参加者	(0名)
広報	<p>チラシ</p>  <p>11/4(水)「ママとベビーのタッチケア」 10:30~11:30 ~ママの手は魔法の手~ 簡単マッサージ付 講師: FU・RE・RU (腸もみセラピー) 寺岡比呂子さん</p> <p>呼吸と腸もみで、まずはママからリラックス そのママの手で 子どもに触れてみよう! どんな変化があるかな? 感じてみよう。 妊婦さんも大歓迎!! ぜひ来てね♪ ※ヨガマットがある方は、お持ち下さい。</p> <p>☆☆☆次回のお知らせ☆☆☆ 12/2(水)ピュア富士子育て応援シリーズ「とちづく広場」出産講座 『子どもにとって「遊び」とは?』 講師: 家庭教育支援チーム「ラ・ベジブル」</p> <p>※予約は不要・参加費無料です。 プレーパークは通常通り 10時~14時開催 出入り自由です♪ お昼にはおみそ汁も作ります。材料と、マイ食器持参してね。 問い合わせ先: 宝の山プレーパーク 岩田 (yamatoko.kanan@docomo.ne.jp)</p>	<p>講師 寺岡ひろこさん</p> <p>広報つる10月号に掲載 チラシ配布先</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いきいきプラザ ・ファミリーサポートセンター ・ピュア富士 ・富士吉田市立図書館 	
目的	日々、子育てに追われているママたちに、自分を振り返る時間をもってもらおう		
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・呼吸法 ・ストレッチ ・腸もみ ・ベビーマッサージ 		
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・イベント効果で参加者増加 ・参加者さんが、自分に意識をもっていくことができた。 ・参加者さんの顔が柔らかくなった。 		
参加者感想	<ul style="list-style-type: none"> ・人に触れてもらうのは、気持ちがいい! ・自分の呼吸が浅くなっているのに気づいた ・短時間でできそうだから、やってみたい。 ・リラックスできた。 ・ベビーマッサージなど、あせる気持ちがあったが、自分がリラックスしてから触れてあげたほうがいいのに気づいた。 ・ママのリラックスがベビーにも伝わるのが感じられた。 ・知らず知らずのうちに身体がこわばり、下を向いているのに気づいた。 ・触れてもらうだけで手のぬくもりが感じられて気持ちよかった。自分でもやってみたい。 		
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・継続して、参加者を増やせるようなイベントづくり。 ・イベント参加者が、毎週来やすいような環境づくり。 ・情報発信の継続 		

添付資料



宝の山プレーパーク 平成27年度 成果報告書 No.7

日時	平成27年 12月2日(水) 10:30~12:15	参加人数	5名
場所	宝の山ネイチャーセンター	初参加者	(3名)
テーマ	ピュア富士子育て応援講座 ともすく広場「子どもにとって『遊び』とは？」	市外参加者	(1名)
広報	チラシ 	講師	家庭教育支援チーム ラ・ベジブル 藤森晴江先生
		広報つる	11月号に掲載 チラシ配布先 ・いきいきプラザ ・ファミリーサポートセンター ・ピュア富士 ・富士吉田市立図書館
目的	自分が子どもの頃と、今の現状がどう違うか、どうしたらいいのか話し合う。		
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・昔遊びを思い出す ・遊びマップを書く ・マップを元に、意見交換をする 		
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・昔のことを思い出してもらえた。 ・遊びの中から社会性を育てていたことに気づいた。 ・今の子ども達の現状について、考えてもらうことができた。 ・遊べる環境を作ることに對して、世代間に温度差があることがわかった。 		
参加者の感想	資料参照		
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・「遊び」テーマでは、人が集まらない。どんなキーワードに反応するのか考える。 ・遊び場の必要性をもっと強く訴える必要がある。 ・大人も、もっと遊べる環境づくりが必要！！窮屈そう。 ・子育て世代の「理想」を、「現実」にしていくための仲間作り。 ・イベントに来てくれた人が継続的に来てくれるような場づくり ・情報発信の継続 		